

要領様式第 2 号

出張報告届

2025年 2 月 28 日

吹田市議会議長様

会派名 市民と歩む議員の会

代表者氏名 梶川 文代

出張者氏名 五十川 有香

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	立命館大学大阪梅田キャンパス 大阪府大阪市北区小松原町 2-4
期間	2025年 2月15日 から 2月15日まで 1日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	



【出張報告】

実施日：令和7年2月15日（土）

場所：立命館大学大阪梅田キャンパス

開催名：第7回議会事務局研究会シンポジウム～設立15周年記念シンポジウム～

テーマ：議会の機能強化と議会事務局の未来

実施目的：21世紀とともに訪れた地方分権の潮流は、コロナ禍を経て国の「補充的指示権」の法制化によって逆流が懸念されている。

しかしながら、地方分権の洗礼を受け、変わったのは執行機関だけではなかったか？
一步遅れて始まった議会改革の潮流のもとで、どれだけ自治体議会は変わったのか？

それにもまして、議会を支える「議会事務局」の体制、局職員の意識は変わったのか？
当研究会が2011年に発表した「議会事務局研究会最終報告書」で提言したことは実現されたのか？そもそも提言内容は、現在でも正しいのか？未来へ向けて、今検証します！

開催プログラム

○基調講演 駒林 良則（立命館大学特任教授）氏より

・研究会の設立（2009年）について

当時、「議会改革において議会事務局は必要不可欠であるが、持てる力を発揮していないのではないかと。目立たない存在の議会事務局にスポットライトをあてよう。」ということを発端に事務局職員が中心になって設立。

・事務局への期待として

市役所で「議会」という仕事はどんな認識なのか分からない。議会は異質なところというイメージを払拭してほしい。常識が通用する議会へ。住民と議会をつなぐさまざまな場の提供へ

○話題提供

①盛 泰子さん（伊万里市議会議員）最終報告書に込めた思いと今後の課題

盛氏は議員と事務局のそれぞれの立場に対し「事務局の人はどういう方だと思ったか？」「異動内示をもらったときどう思ったか？」といった質問を投げかけることで、事務局の意識改革の必要性や制度面の問題、他自治体の議会事務局とのネットワークの重要性といった現状を整理し、事務局職員は議員と並ぶ議会の構成メンバーであるという意識を持つことで事務処理にとどまらない魅力的な職場になるような流れが広まることを期待するとのこと。

②清水 克士さん（前大津市議会局長）局職員が超えるべき「補佐の射程」

③岩崎 弘宜さん（前取手市議会事務局次長）終わりなき議会改革～議会愛は永遠に～
最終報告書を随所に引用しながら「議会愛」の大切さを述べられました。
議会改革に情熱を持つ職員の育成に議員も真剣になるべきとのこと。

○会場の皆でディスカッション！

「議会事務局の目指すべき未来とは？」

議会事務局のあり方を、会場参加者も含めて徹底議論！

パネリスト：盛 泰子、清水 克士、岩崎 弘宜

コーディネーター：谷畑 英吾（元湖南市長）さん

谷畑氏より、「議会改革と議会事務局の役割」についての問いがあり、
盛氏は、議長が水面下で選ばれるのは問題とした上で、議長選挙立候補者の所信表明
に質疑まで必要だとし、機会があるごとに全議員で議会基本条例の確認をすべきだと
しました。

清水氏は、議員の質問中心主義が根付き過ぎていて、公開の場で議員間が何を議論
すべきかわからないことが多く、大津市議会では非公開の政策検討会議を実施するこ
とで議員間の討議を促すとともに、住民意見を議会として聴くため、公聴会や参考人
招致を活用すべきとしました。

岩崎氏は、議会が頑張れば最大限支えたいと思うのが局職員であるので、議員から
頑張っている姿勢を褒めるようにすればよいのではないかと提言し、局職員が伴走
したいと思うような議会が良い議会ではないかと投げかけました。

次に、谷畑氏が「議会事務局の人事について」に議題を移し、過去に草津市、守山
市、栗東市、野洲市、湖南市の5市で議会事務局政策調査課の共同設置ができないか
働きかけ、結果的に5議長と3市長の賛同はあったもの1市長の反対で実現しなかつ
たという事例の紹介がありました。これに対して、清水氏は、理念条例なら共同設置
で十分だが政策条例は執行との調整が必要で難しいと意見を述べ、戦略を練るのは当
該自治体職員でないとできないとしました。また、人事に際して具体的な実務を規程
に決めるべきとしました。独自採用をするとキャリアパスが心配になるが首長部局へ
の出向で解決できるとしました。

その後、会場に参加していた森章浩前奈良県田原本町長が指名され、首長としてど
う思うかを問われて、議会事務局人事は執行部が予め組んで議長とも調整してきたと
いう状況を説明されました。

岩崎氏からは、議会事務局職員の人事の質の向上を図らなければ議会は首長と対等
に議論ができないとし、議会側も責任や役割を理解した上で、手法を積み重ねていけ
ば、順次広がっていくだろうこと、議会基本条例を作って終わりではないと話をされ

ました。

盛氏からは、議員や議長の事務局への意識の高まりが根本になれば、いくら良い人材を首長部局から送り込んでもらっても活かしきれない、他の議会を見て自分の議会でやりたいという人を増やしていく必要があると指摘されました。

その後、会場とのやりとりがなされて、

最後に、パネリストから「執行部局との関係」と「住民との連携」についての話がありました。

○まとめ 代表 駒林 良則

議会改革は近年、停滞気味であり、AIもそうだが執行機関の業務の共通化があり、情報をアップしてしまうとセキュリティの問題もあるがそういうことを議会が知らなくてもよいのか。

課題はたくさんあるのに議会が脆弱化しているという認識を持っているとし、議員は4年に1度変わるので議会事務局のしっかりしたサポートが必要である。

また、今日の議論は多面的な展開で深掘りがされ、それぞれにプラスがあったと思うので、今後とも関心を持っていただき研究会に注目して発展させてほしいとの挨拶がありました。

所感：

首長の政治姿勢も議会の職員配置等に影響することもあるとお話がありました。ただ、配置された事務局職員のモチベーションを上げることは議員や議会として大切なことであり、岩崎さんのように「議会愛」を職員が感じられるような政策立案や議員間討議から面白さや楽しさを得れるような工夫も今後、思いのある議員や職員の方々と意見交換しながら、全体の活動量や質を深めていけるよう、私もいち、議員としてできることに尽力していきたいと改めて感じました。

なお、職員の事務軽減のために、議員の質問・発言時間等を削るという判断を吹田市議会として実施したことを質疑の中で報告をすると、どのパネリストの方も非常に驚いておられました。

改選してから2年が経ちます。今の吹田市議会の様子としては、手話言語条例の立案は実施できましたが、改めて、会派を超えたテーマごとの議員間討議の場を設けることの必要性和重要性、また、新たな可能性を感じています。各議員は多様な民意であることの前提を踏まえた、議論や対話のできる市議会作りを事務局とともに、「市民に身近な市議会」として活動していきたいと思いました。

【参考資料】

議会事務局研究会最終報告書

<https://sites.google.com/site/gikaijimu/saisyuu>